



# 共同通信



2009年10月16日 158(368号)

日本基督教団 西宮公会教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町10-22  
TEL0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email: koudou@gamma.ocn.ne.jp  
<http://koudou.jp/> 振替01170-3-4901  
ホームページアドレスが新しくなりました。

時代にふり回されるのではない 自分の人生を語ってほしい、  
あの時 心を躍らせて生きた 自分の人生を語ってほしい、  
後悔に 身をふるわせたこともある 自分の人生を語ってほしい、  
笑い 泣き 歯ぎしりをした 自分の人生を語ってほしい、  
今日 こんな決意をしたという 自分の人生を語ってほしい

## To tell the story 58 『私の友達』

今回、共同通信の原稿の依頼がきて何を書こうか考えていると、大学の卒業のときも論文ではなく試験だったため20年近く文章を書いていないことに気がつきました。そんな私ですが43年間の人生で人(友達)との出会いについて振り返ってみました。私は淡路島の南あわじ市(旧三原郡西淡町)に生まれ、高校を卒業するまで淡路島で過ごしてきました。小学校は各学年1クラスしかなく先輩・後輩の分け隔てなく全校生徒が友達だったように思います。毎日、友達とサッカーや魚釣りに明け暮れ、畑に入れば野菜や果物を取っては怒られ、やんちゃ坊主の友達ばかりでした。中学・高校は島内唯一の私

立の学校に通い始めるも、ここでも各学年1クラスしかなかったのですが、その分友達との交流が密で夜遅くまで遊び、家に帰ってからは小学校の同級生と遊ぶという生活が高校を卒業するまで続いていた気がします。そんなわけで今でも食事に行ったり、誕生日会をしたり、とても楽しい仲間がいます。大学に入ってから、淡路島から遠く離れ岐阜で7年間を過ごしましたが、ここでの7年は、クラブ活動・同好会活動をしながら、学外ではイベントサークルを立ち上げスキーツアー・パーティー等の企画・運営を行いスタッフだけでも100人以上にもなり、出会う人も学生だけではなく、多種多様の業種の社会

人とも話をする機会をつくることができ、いろんな経験をし、いろんなところで友達ができました。そんな中で妻とも出会いました。大学を卒業してからは、仕事・結婚、そしてわが子との新しい出会いがあり、共同幼稚園とめぐり合い、毎年1月に行われる園のお父さんの新年会で、園長先生・順子先生とお話しする機会が設けられ、先生の理念と熱き思いに共感したお父さんたちが結束し“のび～る”(園長先生命名)という名前で活動するようになり、新たな友達もできました。

のび～るでは何をしたら・どんなことをしたら子どもたちが喜ぶのか?楽しんでくれるのか?色々話し合いながらお父さんも楽しんで活動しています。また園・教会学校での活動だけでなく、プライベートでもキャンプ・バーベキュー・スキー・ゴルフなど、いろんなところで行動を共にして遊んでいます。まさかこの年齢になってこんな楽しい友達ができるとは思っていませんでした。これからもがんばってのび～るの活動を続けていきたいと思います。

今年の夏、非常に悲しい事故ありました。のび～るのメンバーの訃報でした。8月8日、朝のラジオ体操から帰って新聞を読んでいて、「西宮市愛宕山井上慶太さん四万十川で死亡」の記事が目飛びこんできました。

2 最初は、「のび～るの井上さんじゃな

いよな」と自分に言い聞かせながらも自然と目からは涙がこぼれ落ちていましたが、事実確認しようと友人に連絡してみたところ、間違いなしとの知らせが入ってきました。私と妻は、その場で泣き崩れてしまい仕事どころではありませんでした。それでも信じられない信じたくない心境で、順子先生・のび～るのメンバーに連絡を入れました。誰もが信じられなかったと思います。ほんのひと月前の星まつりでは真っ赤な顔をして油まみれになって一生懸命のび～るコロッケをあげていた井上さんですから、信じろといっても無理なことです。

お通夜・葬儀には、ほんとうにたくさんの方が駆けつけてくださって井上さんとの別れを惜しみ涙を流しました。お通夜の時、井上さんの会社の人と話をしましたが、井上さんは園のまつりの前の日になると「明日は、幼稚園のおまつりで、朝から揚げ物しなあかん」といって、楽しそうに話していたそうです。そんな井上さんは、いつも最初から最後まで油まみれになってコロッケ・フライドポテトを揚げ、子どもたちの笑顔を見て顔をほころばせて皆で喜びました。

仕事も違い、価値観も違うお父さんが集まっても「子どもたちが元気で、笑顔でいられるために」という思いが一つになっているから私たちも喜べるんだと思います。これからも、

井上さんの熱い思いも、のび～るメンバー皆で共有し活動していこうと思います。井上さん、ありがとう。

(糸田 教浩)

# 「一枚の写真が 国家を動かすこともある」

( DAYS JSAPAN )

イエスとその働きの事が話題になって、行く先々で人が集まりました。当のイエスは、そのことを避けようとした様子が伝えられています。「さて、イエスは、そこを立ち去って、ツロの地方に行かれた。そして、だれにも知られないように、家の中に入られたが、隠れていることができなかった」(マルコによる福音書7章24節)。生かすのでもなく、殺すのでもなく、人を扱ってしまいかねない社会に、自分も一緒に生きていて、それを強いる者へ鮮やかに反撃したりするイエス、病んでいる人たちに寄り添ってそれを“いやす”イエス、その働きの事が話題になっていました。

話題になっているイエスは、話題になることを避けるようにそこから立ち去り、たまたま滞在することになった場所でも、隠れるようにしていましたが、“隠れおおせない”ということもあった、というのがマルコによる福音書の記述です。期待されて、その期待に応えなくてはならないということになって、そのことと

真剣に向かい合えば向かい合うほど、そのことの重さからまぬがれたいと思ったとしても、あり得ることです。“だれにも知られないよう”というのは、そんな時のそんな様子を伝えているのだと思われます。

しかし、「けがれた霊につかれた幼い娘を持つ女」が、イエスの“防衛線”を突破します。女は、「イエスのことをすぐ聞きつけて、その足元にひれ伏し」「娘から悪霊を追い出して下さい」とお願いします。だからと言って、この時のイエスはひれ伏して願う女にすぐには答えません。出し惜しみではなく、もともと、それらのことが自分の役割ではない、と受け取っていたのかもかもしれません。何者かである自分ではなく、何者でもない自分として、という意味で。というイエスなのですが、イエスは女の願いに押し切られるようにして、一歩踏み出します。結果として悪霊は幼い娘から出て行くことになるのですが、その原動力になったのはその娘をもつ女(母親)の「その言葉」であ

ることを、イエスは指摘します。そこに強い願いや意志を込められた言葉は、何者でもないイエスに、悪霊を追い出す力を与えた、それを実現したように読めるからです。

という、マルコによる福音書とは別に、同じ場面について書いているマタイによる福音書では、当の女は「『主よ、ダビデの子よ、わたしをかわれんでください。娘が悪霊に取りつかれて苦しんでいます』と言って叫び続けた」となっています。娘が“悪霊に取りつかれて苦しんでいる”から、女(母親)が“叫びつづけ”更に、弟子たちがその女を“追い払って下さい”とイエスに迫ったりするなどの描写は、少なからず意図的であるように読めます。更に、描かれている一連のやりとりは“起こるべくして”起こっています。女に依って、娘の悪霊を追い出すことが期待されたのは、“主よ、ダビデの子よ”と呼ばれるイエスです。そんな“肩書き”であれば、できないことはないこととして、なのです。そのダビデの子に「・・・女は近寄りイエスを指して」「主よ、わたしをお助けください」と願い出ます。イエスは、「子どもたちのパンをとって小犬に投げてやるのはよろしくない」と、一旦はその願いを退けますが、「・・・小犬も、その主人の食卓から落ちるパンくずは、いただきます」と女に押し切られます。そして、押し切った女の事で「女よ、あな

たの信仰は見上げたものである」「あなたの願いどおりになるように」と答えます。一方に、“主よ、ダビデの子よ”がいて、あなたの信仰は見上げたものである“信仰”があれば、実現しないものはないことになります。ダビデの子と信仰が娘から悪霊を追い出すことを“保証”するのですから。

マルコによる福音書には“保証”するものが示されていません。確かに、イエスの事は女の耳に届くくらい話題になっていました。その“話題”を保証する何かではなく、自分の判断でそれを評価したのが、マルコによる福音書の場合の女でした。身を隠すようにしていたイエスを探し出したのもその女です。願いを伝えるのですが、すんなりと答えないイエスを変えたのは、女の言葉です。“主よ、ダビデの子よ”という、もともと評価され期待されるイエスではなく、女の言葉に動かされて、娘から悪霊を追い出す“奇跡”をして見せたのが、マルコによる福音書の描くイエスです。

(菅澤 邦明)

•;E•, Ì, ç, Ì, è•`

•@\_ , ³, Ü•A •;`ú, à^ê`ú, ð<F, è, ð, à, Á, Ä•n, ß, ç, ê, Ü, µ, ½, ±, Æ, ðŠ`Ó  
, µ, Ü, ••B •@

•@, Ð, ñ, â, è, Æ, µ, ½•—, É•æ, ¹, ç, ê, ÄfLf`f, fNfZfC, Ì••, è, º, â, Á, Ä, «  
, Ü, µ, ½•B "N, É^ê`x•A -ñ`©, Ö•Ê, ½, •, æ, ð, É, â, Á, Ä, -, é, ±, Ì-K, ê, ð•A  
-^"N^á, ð•v, ç, Ä}, |, Ä, ç, Ü, µ, ½•B , ½, -, ³, ñ, Ì•C•i, ç, Æ•Ê, ê, º, , è•A  
•S, ð"©, ©, ³, ê•A ^Ô, ß, ç, ê, ½`ú•X, Ä, µ, ½•B

•@\_ , ³, Ü•A , Ç, ð, ©`Ò, ç-], Ð•K, ¹, ð•,, ½, ç, É-^, |, Ä•º, ³, ç•B •V, µ, ç  
<G•ß, º-^, é, Ì, ð`Ò, Ä••, É•A •l, Æ, Ì•Ä•i, ð`Ò, Ä••, É•A •q, ç, à, ½, ç, º  
•S, ð, Æ, «, ß, ©, ¹, È, º, ç•S•-, ð`Ò, Ä••, É•A -ñ`©, º•Ê, ½, ³, ê, é, Ì, ð`Ò  
, Ä•K, ¹, ð-^, |, Ä•º, ³, ç•B

•@•ç, Ì•I, í, è, Ü, Ä•,, ½, ç, Æ<ð, É, ç, é, Æ•¼, í, ê, ½fCfGfX •EflfŠfXfG  
, Ì•¼-t, ð•M, ¶, é, æ, ð, É•B

•@-c' t•••A <³•iŠw•Z, Ä•q, ç, à, ½, ç, í•H, ð•S, Æ`Ì, ÄŠ`, ¶, Ä, ç, Ü, ••B  
, ç, ð, ©•A •q, ç, à, ½, ç, Ì•E'•N, Æ^À`S, º•ç, ç, ê, Ü, •, æ, ð, É•B , ±, ê, ©, ç  
, Ì-^`ú, º-L, ©, Ä, , è, Ü, •, æ, ð, É•B

•@•;•Ý, é, ±, Æ, ðŠ`Ó, µ, Ä•A , ±, Ì^ê¼, Ì<F, è•A ` , «•âfCfGfX •EflfŠ  
fXfG, Ì•Ä-¼, É, æ, Á, Ä•Ä`O, É, "•ù, °'v, µ, Ü, ••B •@fA• [f•f"

•@ •@ •@ •@ •@ •@ •@•@•@•i' â•½@-L< I•j

## “ あきはみんな～ おしゃれしてるよ～ ”

長い夏休み、夏期保育を終えて、2学期の始園の日を迎えました。元気な子どもたちの姿が幼稚園に戻り、また新たな日々が始まります。この日、みんなを驚かせてくれたのは、大きなスイカ！！池田の“くだもんや”さんが心を寄せてくださり、今年も巨大スイカの登場となったのです。子ども3人分と同じぐらいの重さで、そんな大きなスイカを目の前にして興味津々の子どもたち、みんなでたくさん味わうことができた2学期の始まりでした。

ゆうびんはいたつえっさっさ～子どもたちははがきにオシャレをして、おじいちゃん・おばあちゃんに届けました。はがきをポストに投函し、「ちゃんととどきますように・・・。」とおいのりしている姿も見られたのです。

年長組の子どもたちは、おじいちゃんやおばあちゃん達と一緒に過ごした“おはぎパーティー”。お母さん方が作って下さったきなことあんこのおはぎを食べ、わらべうたでは手を取り合って笑って、一緒にうたった時間となりました。たくさん遊んで下さったおじいちゃん・おばあちゃんと、さよならあんころもちまたきなこと～ とうたいながら、

一人ずつ握手をします。最後の一人まで、笑顔でありがとうと言って下さっていたおじいちゃん・おばあちゃん方の優しい笑顔に心が温かくなったのです。

幼稚園の畑では、線路沿いにずらりと並ぶ“ひがんばんな”が9月の中旬頃から咲き始めました。ぐんと伸びた茎の上に、花火のように真っ赤に開くひがんばんな。次の日にはまたその“赤色”が増え、次の日、その次の日・・・みるみるうちに“赤色”は広がっていくのです。畑を訪れるたび、「あー！！もっとさいてる～！」と、その変化がすぐにわかるほど、1日でたくさん花を開かせるひがんばんなは、年々その数を増やし、約1800本にもなっていたのです。絵本“ひがんばんな”(甲斐信枝 福音館書店)には、ひがんばんなの1年間が描かれています。花を咲かす9月の時期だけでなく、冬の間も春も夏も、土の中でまた地上でその成長は続いていて、球根を増やしたり、鮮やかな緑色のはっぱが生い茂る時期があったりと、不思議な植物のひがんばんなのです。植物や木には“一年”があって、表に出ない時期も確実に成長しているのです。小さな変化や成長に気づいて、子どもたちと驚き喜び合え 7

る、そんな毎日でありたいと思っています。

連休が明けた日の幼稚園には、“秋の味覚”がたくさんでした。多くの方々が心を寄せて下さり、ぶどう、くり、さつまいも、くるみ、とちのみ、なし、かぼちゃ、親芋などの“おいしいもの”が子ども達の前に登場しました。見て楽しみ、食べて楽しみ、みんなで秋の訪れを感じた時間となりました。

今の季節を大切に、子ども達と  
その時その時を身体で心で感じなが

ら過ごせる、そんな毎日が与えられていることに感謝いたします。少しずつ風が冷たくなり、本格的に“秋”となりました。これから訪れる日々も、どうか子ども達の健康が守られ、豊かな毎日でありますように。

(近山 佳奈)

## すずや便り

食欲の秋 我が家の台所には現在「パーモントカレー」がたくさんあります。ここでピン！と来た方はいらっしゃいますか？実は「嵐 in 東京 ディズニーシー」に応募する為にバーコードが必要なのです。まあ必要としているのは長女だけですが。彼女が9月の連休の一日、友達とカレーを作りながら応募はがきを製作する（から出かけてほしい）というので、長男と上野動物園へ遊びに行くことにしました。当日は出かける準備が遅くなってしまい、「洗濯干すのお願い！掃除もよろしく！いってきま～す！」と叫びながら出発。用事を頼んで出かけるなんて、家に留守番が

行楽気分です。

お出かけにはいい季節なので上野駅を出たところから人の波ですが、周囲には美術館や博物館もあるので動物園（一番奥）に着く頃には落ち着いてきます。園内を気ままに歩いていき、大好きなこども動物園へ。動物好きの長男は触り方がうまいのか？ヤギもうっとりしています。それから落ちている草を食べさせていたのですが... 突然「枯葉が好きなんだ」と、落ち葉（かさかさに枯れている）を集めたのです。緑の草の方が新鮮じゃないの？なんて思いながら見ていると、確かに食べる！ヤギの口元にはいろんな草が差し出されるのですが、「枯葉」ばっかりムシャム



シャ食べるのです。あまりの食べっぷりに驚きです。葉っぱの主は「トウカエデ」。この木が良いのか、枯葉だからなのかは分からないのですが、面白い発見でした。その後「携帯端末貸出カウンター」に行きあたり、一台借りることにしました。動物舎そばの「IC タグ」に「タグリーダ」をかざすと本体にその動物の説明が出てくるのです。動画で普段は見られない赤ちゃんの水遊びの様子が見られたり、クイズもあったりしてかなり楽しめました。中学生以上のメニューではタグの読み取りができない代わりにお勧めツアーが組み込まれているようでした。上野動物園のHP から予約もできるようなので、訪れる予定があるならお勧めです。

動物といえば、8月にご近所さんから2匹の赤ちゃんハムスターをもらいました。寄り添って仰向けで寝たり、エサを取り合ってキューキューと鳴いてケンカしたりと人間のよう

なしぐさは見ていて飽きません。そして、性別の分からなかった文鳥アレックス、先日卵を産んでいました！女性だったのですね...今更「アレ子ちゃん」でもないので、改名は無しです（実家の父は「アレクサンダー」と呼びかけてますが）。

さて、動物園を堪能したので帰宅は夕方遅めになってしまいました。でもドアを開けるとカレーの匂い&きれいに片付いたリビング！素晴らしい！（毎日友達が遊びに来てほしい）と思いながら美味しいバーモントカレーをいただきました。

（富家 香麻里）

## みかん便り

台風が過ぎる前と過ぎてからで気温がだいぶ変わりました。つい最近までは少し肌寒いかなあって思っていたぐらいでしたが、今は長袖でも少し寒く感じます。大学では夏休みが終わり後期の授業が始まりました。このみかん便りを書き始め、もう1年

がたちました。毎月文章に書けるようなドラマを僕は経験していないし、何を書けばいいのかも初めは分かりませんでした。熊本や札幌への遠征や年末ライブ、そこに向かうまでの練習など、書くことがあるときはいいのですが、何も書くことが無い月 9

はパニックになります。でも、何も無い月ほど周囲の些細な変化に目を向けることが出来るし、大きな流れに乗るのでは気付かない自分の1歩に気付くことが出来ます。札幌・夕張遠征の翌月は、その時周りに感じた仲間やスタッフさんの温かさを自分は同じように出せているかなどをつい考えてしまいます。自分はどうかを考えることが初めの1歩なんやと思うと嬉しいです。

自分はたくさんの優しい大人に支えられて生きています。でも、お前は誰かを支えているのかと聞かれると誰も支えてなんか無いし、自分勝手に好きに生きています。来年で成人になりますが、あんな大人にはまだまだなれません。自分の周りにはたくさんの良い大人の見本があり、カッコいい生き方をしている人がいっぱいいます。恵まれた環境にしながら、そんなことに目を向けずに生きているのはドあほのすることやと思うし、まだまだガキなんやと思います。実際まだまだ今のままでいいと思っているし、親からかかってくる心配の電話もさっさと切りたい気分です。

ウチのおかんが毎回言う言葉、「そろそろ将来のことちゃんと考える！」「小学校の先生なんか簡単になれるもんちゃうんや！」「留学なんて甘いこと言うな」「お前は何を考えて生きて

これに対していつも言う、「何回も同じこと言わんとって！分かってるからもう切るで」。

実はよく分かっていません。親の心配はありがたいけど、今はほっといてほしいといつも思います。たぶん同じ年代の子は同じことを思っていると思います。でも、そろそろ真剣に考えなあきませんね。はい。

今月は何も書くことがありませんでした。でも、意外と書けるもんですね。「周りには自分のことを心配してくれる人がいる。」キレイな言葉は嫌いですが、あらためて思うとやっぱり嬉しいものですね。成人式まであと2ヶ月。少しは自分のこれからを考えていかなあかなあと思いました。

(河村 高志)



## 教会学校から

### 《9月の活動報告》

9月6日(日)

津門川掃除大作戦

9月13日(日)

・沖縄クイズ大会・そうめんチャンプルーを食べる！

・沖縄キャンプ同窓会&エイサーまつり

9月20日(日)

幼稚園と合同・おおなわ大会！

9月27日(日)

第1回津門川川魚調査/統一マダンに参加する。

### 《10月の活動予告》

10月4日(日)

秋の新米・おにぎり大会！

10月11日(日)

わなげ大会！

10月18日(日)

幼稚園と合同・ドミノ大会！

10月25日(日)

アイスクャンディー・スティックを使って“作って遊ぶ”

2009年10月 あんなこと こんなこと...

# 大切な贈り物・津門川 8 5

“ 川そうじ日記 ”



## まいのなんでも案内

共同通信をご愛読の皆様、こんにちは、こんばんは、おはようございます。クリスマス商品の案内を半袖でしていたら、いつの間にか秋も盛りになってしまい、全く季節についていけない23歳OLです。わーお。布団だけは早々に衣替え(?)したんですけどね。どうも洋服が夏のままです。反省。

そんな最近、趣味は読書です。いや、最近に限らないだろうと言われるのですが、私にとって本を読むことは空気を吸うことと同義なのだと実感しました今日この頃。平日は仕事、休日は家で寝ているか誰かと会っているか、という生活を続けていたらどうにも何か足りなくて気分が冴えなくて、これがいわゆる社会人1年目のうつ状態というやつか！と思っていたのですが、気の向くままに本を買って読むことにより解消されました。自分でもびっくり。いえ、仕事柄、全く読んでいなかったわけではないのですが、こう、1日に2冊とかのスピードでがっつり読むことはさすがに少なくなりまして……。でも我慢は身体によくないことが分かったので、最近は気にせず読むことにしています。キリがつかないと歩きながらでも食べながらでも読み続けるのがお行儀が悪いのですが。

16 今日も会社への道で読みながら歩い

ていたら(しかもハードカバー)、同期に見つかって呆れられました。いやでも『魔女ジェニファとわたし』のジェニファだって読歩術は心得てたし!まあ実を言うと母親ゆずりなんですけどね。立ち読み、読み歩きの習慣。と、思いっきり人のせいにしたところで、今月の紹介を。

東京に来て良いことの一つは、美術館に行きやすいことです。その分混みもしますが、大きく宣伝しているところに人は集まるので、穴場の展覧会があるのです。ふふふ。先週のあたりは、「古代カルタゴとローマ展」。電車のつり広告で見つけてずっと行きたくて、初日の混雑を覚悟で雨の中ふらりと出向きましたら、それが見事にガラガラ。一人で行ったこともあり、ゆっくりじっくり見ることができました。カルタゴとは、紀元前6世紀ごろに地中海で栄えた国で、現在のチュニジアにあたります。と言ってもピンと来ないとは思いますが、わたくしもそういう意味での知識は非常に乏しいので大丈夫。ただ、ですね。カルタゴが滅びた原因は、力をつけつつあった古代ローマ帝国との3回にわたる戦争(ポエニ戦争)なのですが、その第二次ポエニ戦争で大活躍したカルタゴの将軍ハンニバルが、もうめっちゃくちゃ格好いいのです。結婚したい将軍ラン



キングベスト5に入ってます。なんてたって象を率いてアルプス山脈越えちゃいますからね。ああ素敵。恐らくハンニバルと聞いたらサスペンス映画を思う方も多いでしょうが、名前が由来しているのかは不明です。

今回の展覧会には、そんなハンニバルの指揮下にあったかもしれない兵士の鎧がとても保存の良い状態であって、胸キュンでした。あと、モザイク画がすごく綺麗で、これがいくつも並んでいた壁は、そりゃお金持ちしか住めなかったよなあ、と納得しました。展覧会は、カルタゴが独自の文化を築いて栄華を極めた時期から、ローマに負けてすっかりローマ化してしまった時期まで満遍なく展示品があり、しっかりとカルタゴを満喫できました。予備知識がなくても、明らかに文化が変わったのが分かり、「ああ、『ローマ化』てこういうことなのかなあ」と感じることもできると思います。とかいうと去年まで所属していた場所（古代西洋史ゼミ）に「分かったようなことを言うな」と言われてしまいそうですが・・・。グッズもなかなかセンスが良かったですし、関西では来年になってから開催するそうなので是非足を運んでみてはいかがでしょうか。ハイソサエティ（って死語でしょうか。）を気取れますよ。それではまた

来月。タイムカードをきった後の会社からお送りしました～。（良い新入社員は真似しちゃいけません）

（高橋 舞）

## つとがわ 編集後記

「橋の上の『殺意』」(「畠山鈴香はどう裁かれたのか」、鎌田慧、平凡社)は、33歳のお母さんが“二人”の子どもを殺した事件のルポタージュです。2009年5月に“無期懲役”が確定し、“もう、これ以上聞きたくもない”終わってしまった事件なのでしょうが、しかし何一つ解き明かされていないことを、問い、かつ迫ろうとしました。「橋」(橋本治)は、多分この事件を見つめた小説です(文学界2009年10、11月号に掲載)。お母さんが、子どもを殺してしまうような事件が起こってしまうと、“人間ではない”と片づけてしまいます。そうじゃなくって、30年とか40年をかけて、人を育ててきたこの国の歩みが、その蓄積の結果として、お母さんが子どもを殺してしまうことになっているかもしれないことを、「橋の上の『殺意』」は、その事実を直接追うことで、「橋」は物語によって示しているように読みました。

(K)

秋真っ只中ですね。幼稚園の園庭の金木犀も甘い香がしています。いろんな秋がありますが、どんな秋が好きですか？スポーツ？読書？おでかけ？買い物？(これはちょっと違う？)私は～今は食欲です。それも果物！最近ぶどうが大好きで、先日夕飯の後に巨峰を食べているとき、母とブドウの話になりました。すっかり忘れていたのですが、小さい時からブドウが大好きで、小粒のデラウェアを家で食べると、一房を手にとって抱え込んで食べていたそうです。私の兄もそうしていたらしく、薄い記憶をなんとか辿るとそうだったような～。食べ出すと止まらなくて一房なんてあっというまだったなあ～と。そんな話もあってまた更にブドウが好きになりました。いろいろ美味しい秋です。園舎には渋柿もぶら下がっています。「はやくみんなでたべたいわ～」とつぶやく子どもに、うんうん！・・・甘くなるのが待ち遠しいです。

(I)

免許を取ってから、車で外出することが増えました。でも、車もいいけど自転車も好き。梅田へ、心齋橋へ、1時間くらいで行ける場所なら自転車で行ってしまいます。

そして、歩くことも大好き。先日、なんとなく「歩きた～い」という気分になり、幼稚園から甲子園まで歩きました。

空は青くて、行く先々で大好きなキンモクセイの香りがして、ウキウキしながら約1時間歩きました。そんなふうに、特に目的もなくのんびり歩くのもたまにはいいなあと思いました。

(Y)

最近、ハサミ、カッターを使つての切り紙にはまっています。本屋に行くといついつい切り紙の本を手にとってしまい～今手元に5冊の本があります。本を見ているだけでもワクワクして楽しいのですが…型紙に合わせて切っていく、ドキドキしながら紙を広げて完成したのを見ると嬉しくなっちゃいます

それをちょこっと封筒や便箋に貼って友達に手紙を書くのも楽しみの1つです。チョコチョコキ～次は何を切ろうかな～

(N)

漫画大好き。隔週刊誌や週刊誌あれこれ楽しんでいる。1977年中央アルプスに登って雨で外に出られない中、木曾駒の山小屋で手に取ってから購読しはじめたものはその後もすすんで購入、ずっと楽しんできた。そしてあえて買うまでもと思う他誌はそれを購読している人と出会って、とりかえっこして2軒分楽しむことにして20年。すっかり長いつきあいになった人もいるし、短編だけれど心に残った作品、そんなあったけなどというものも。何と62歳でやっと引退することになった「あぶさん」も長い。あぶさんも年だけれど、まあ読者も確実に「じじ、ばば」に。ところで、漫画なんてと顔をそむけないで。これがなかなか味があるのです。鶴見俊輔の講演会であの冷静な人が口角泡を飛ばして参加者と筋について意見を交わしていたのが「寄生獣」、これ面白いよと息子に言われて、はまったのが「絶望に効く薬(略して絶薬)」。なかなかの作品群です。漫画にまでは手を伸ばせないと横を向いていた連れ合いが、最近まとめて購入に踏み切ったのが「バガボンド」、古本屋で手に入れたと喜ぶ父親に、おれ全巻持つてるぞと叫んだ次男。ついでに「この家には、『報・連・相』はないんか」。いやあ手抜きがありました。漫画のことはまず若者に意見を求めてみなくちゃね。ところであることから「のだめカンタービレ」にはまって22巻。のだめレッスンバッグにまで手がのびそうになったけれど、何に使うんだと思いとどまる。クリスマスをお楽しみに、きつとわたしの「のだめ」病に拍手をいただけることと。

(J)